

Title	訂正
Sub Title	
Author	増井, 幸雄
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.9 (1923. 11) ,p.1608(134)- 1609(135)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19231113-0134">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19231113-0134</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

學派 *ponocratie* の、土地を以て價値の淵源と爲す學派 *physiocratie* との兩者を併せて、土地と勞働との兩者を以て價値の淵源と爲すの學派に屬する人を指すものなること (O. Effertz, *Le Principe ponophysiocratique et son application à la question sociale. Leçon d'ouverture faite à la Faculté de droit de l'Université de Paris, 1913. p. 15.*) を知り、粗忽の罪の大なるを覺ゆ。今茲に右の箇所を左の如く訂正して讀者に謝す。

百八十七頁八行目より九行目にかけて「彼を呼んで *Physiocrates* の末流 (*Ponophysicrate*) となす者ある所以は茲に在る。」とあるを訂正して「彼を目して *ponophysicrate* と呼び得る所以は茲に在る。」となし、同時に右の一句の前に「Smith の *ponocratie* (O. Effertz, *Le principe ponophysiocratique etc., p. 15.*) の *Physiocrates* の *physiocratie* もは Garnier の同時に採用する所となつた。」の一句を挿入す。

(二)、此の機會を利用して、原稿淨書の際に

第十七卷 (一六〇九) 新刊紹介

誤つて書き洩したる文句を左の如く挿入することとを許されたく思ふ。

百九十五頁十一行目、「唯、彼の指摘する此の效用の概念は、」の次に、「水及びダイヤモンドの例を擧げて、使用價値〔即ち效用〕の大小が交換價値の大小と正反對なる場合あることを指摘して居るの一事 (p. 30.) の外には、」を挿入す。

二百二頁三行目、「吾人は、」の次に、「此の引用文によつて、Smith が其の事實あることを指摘するに止めて未だ其の理由を示すに至らざりし現象が、Bastiatによつて説明せられ展開せられたるを見ると同時に、」を挿入す。

(三)、猶は、百九十二頁十三行目の中央に「定著著」とあるは、「定著」の誤りなり。

(増井 幸雄)

見解を共にすることの出来ない読者がありとしても本書に掲げられた事實と數字は嚴として動かない價値を有し且つ讀者を益すること大であると思ふ。

特に第二編の歐洲新興國其他小國の經濟事情は我國に於ては之を知る不可能でないとしても甚だ困難であると思ふ。然るに本書は之れ皆著者が親しく自ら其地に到り實際に付て研究せられた結果で讀者は容易に此等新興國の經濟一般を會得することが出来る。特に氏がかかる小國の經濟狀態全般を僅かの數に納め而も要を得た頁手腕は驚く可きものがある。

要するに本書は僅々百六十九頁に過ぎないけれどもこれによつて現代歐洲經濟界の混沌狀態を一讀の下に了解せしめんとした氏の努力は充分に成功してゐるものと思はれる。特に本書の序文の代はりとして置かれた「歐洲に於ける獨立國概説」は今日一般人士の必讀の文字であると共に、其結論として置かれた反動的勢力を論

じて「かかる一時的現象たる反動を過信してはならぬ。……これを大勢と速斷するは短見者流たるを免れぬ」と云つて反動期に歐洲に在りし一部のものを誠しめてゐるのは評者の亦全然賛同する所である。

評者は座ながらにして歐洲の現狀に親しみ時代に後れざらんとする欲する一般讀者に對して切に本書を一讀せんことを薦むるものである。

(向井 鹿松)

訂 正

(一)、予は、本誌本年七月號の拙稿「アダム・スミスと其後の佛蘭西經濟學說」中に於て、「*po-nophysicrate*」なる一語をば語義を充分に詮索することなくして「*Physiocrates* 末流」と解するの誤りを冒せり(一八七頁九行目)。右の拙稿校正濟の後に至つて、此の語は *Otto Hertz* の自ら創説する一學派と所説を同じうする者、詳しく云へば、勞働(*Ponos*)を以て價値の淵源と爲す